

令和5年度障がい福祉分野の ICT導入モデル事業 事例報告

＜株式会社こころ＞
＜訪問介護ONO＞

事業所概要

サービス種別 (複数ある場合は主たるサービス)	居宅介護
所在地	大阪市 西淀川区
職員数 ()内は常勤換算数	18名 (3.5人)
事業所の特徴	地域密着の事業所として、利用者様が可能な限り在宅にて自立した日常生活が出来るように配慮して援助を行います。

I C T 導入の背景・目的

帳票作成

➤ 導入前の状況

■ 現在利用中のシステムがオンプレミス型であったことから事業所外での操作を行うことができず、各種帳票（モニタリング、居宅介護計画書）作成の際は、利用者宅へ訪問を行い面談内容を記録用紙に手書きで記載。
終了後、事業所に持ち帰り、再度システムへの転記作業を行うことで二度手間となっている。

➤ 導入の目的

■ 利用者宅へPC・タブレットを持参・入力を行うことで、転記作業削減ならびにペーパーレス化により、時間の有効活用・個人情報の管理を安全に行うことが期待できる。

I C T 導入の背景・目的

サービス提供記録

➤ 導入前の状況

■ サービス提供記録を紙媒体で管理することにより、スペースの確保・記録用紙の保管が煩雑である。

また、提供記録ならびに実績記録票を請求システムへの転記作業が必要となり、入力誤りによる返戻や再確認が度々発生しており、事務作業に時間を要している。

➤ 導入の目的

■ 記録業務を電子化することで、ペーパーレス、情報管理（抜け漏れの確認、修正依頼）、転記作業、請求業務におけるヒューマンエラーを最小限に抑えることができる。

I C T 導入の背景・目的

その他業務

➤ 導入前の状況

■ 帳票作成同様に、事務業務（シフト作成、給与管理）は事業所内での隙間時間等でしか進めることができず、後々取り組む機会が多かった。さらにシフト作成等は別途、管理ならびに作成を行っていたことから多岐に渡る情報管理が煩雑である。

➤ 導入の目的

■ クラウド型システムに加え、給与計算、シフト作成等を総合的に行うことができる機能が盛り込まれており、情報の一元管理、時間の有効活用、文書量の削減を図る。

導入機器

- 導入する I C T の検討
 - タブレット (2in1)
 - 業務支援システム (MAPs for Nursing Care)

- 導入した I C T
 - タブレット (2in1)
 - 業務支援システム (MAPs for Nursing Care)

I C T 導入の実施体制の整備

➤ 職場内の研修

- ・ ・ ・ ・ メーカーによるデモンストレーション（計3回：約5時間）
- ・ ・ ・ ・ 導入前の疑問点・課題の洗い出し（計1回：約2時間）
- ・ ・ ・ ・ 導入後の操作講習（計2回：操作講習90分、請求立会90分）
- ・ ・ ・ ・ 導入後の疑問点・課題の洗い出し。操作方法の確認等

➤ 関係者（利用者・家族等）への説明等

- ・ ・ ・ ・ 記録システム導入に伴い、これまで紙媒体で行っていた記録用紙から変更となる部分を説明の上、同意をいただきました。

効果検証

	導入前（時間）	導入後（時間）	削減率（%）
記録業務			
<ul style="list-style-type: none">・ 計画案作成・ モニタリング案作成・ 業務日誌	155分	100分	35.4%
<ul style="list-style-type: none">・ 各業務が外出先でも可能となっただけでなく、システム内のテンプレート機能を通して、利用頻度の高い文言の引用や、業務負担・時間の削減につながっている。・ シフトが外出先での隙間時間を活かしてできるようになり、さらにシフトと連動して各スタッフの給与計算まで行える点も別途作業の手間が省けている。・ サービス提供記録は、各ヘルパーが入力に慣れるまである程度の時間を要することが予想されるが、事業所側では記録の集計が容易となり、入力漏れや修正箇所を可視化することができるようになった。ヘルパー側も紙媒体での記録業務で発生していた記録用紙紛失や内容修正をシステムを通して行える点も今後の業務時間削減に期待できる。			
報酬請求業務			
<ul style="list-style-type: none">・ 計画案作成・ モニタリング案作成・ 業務日誌	240分	150分	37.5%
<p>導入前はヘルパーより記入を行っていたサービス提供実績票をもとに、システムで作成した予定と比較しながら実績登録を行っていた。ICT導入によりサービス提供記録と請求システムが連動していることで、日々ヘルパーが入力した提供記録を容易に確認・実績反映が可能となり作業時間の削減につながっている。</p> <p>現状では、ヘルパーの入力誤りが見られるが、これから操作を進めていくなかでミスも少なくなっていくと考える。</p>			